

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2 年 4 月 3 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470102884		
法人名	社会福祉法人 可部大文字会		
事業所名	グループホーム(山まゆ)フルーツハウス		
所在地	広島市安佐北区大林4丁目10-26 (電話) 082-810-5585		
自己評価作成日	令和2年3月13日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470102884-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年3月31日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

24Hシートを活用する事で、その人の生活リズムを把握し、その人に合ったケアを常に考え実践している。具体的には、起床時間や入床時間などを好きな時間に行っている事や、週2回の朝食の主食選択（ご飯・パン）、入浴時間や頻度の調整、日中の過ごし方（手芸や園芸）等、自己決定・自己選択出来る様に支援している。入居者のケア方法を考えるケア会議を、毎月フロア会議とは別に行い、状態変化への対応やケアに対しての提案や気になる事を、職員間で出し合い情報共有やケア方法の統一に役立てている。また法人内のイベントや、フルーツハウス内の多種多様なレク、個別支援の外出など、日中を職員4人体制にする事で積極的に行っている。その他には、地域との交流が盛んであり保育園、小学校のイベント参加や、地域行事に準備から手伝い、盆踊りには職員も踊り子として参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

研修体制の充実に加え、理念に基づいた年間目標を掲げ、具体的な計画に基づいて日々実践している。一人ひとりの生活リズムに合った「本人主体」の介護支援がされている。地元行事が盛んな地域で、季節毎の行事があれば準備段階から参加し、近隣住民との関わりを重ね、顔なじみの関係ができていく。食事面に関しても、ホーム菜園で採れた野菜を新鮮なうちに調理し、調理レク、おやつレクを適宜取り入れ、食の楽しみと喜びを味わう取り組みをしている。働きやすい職場環境づくりに力を入れ、職員の意見要望を職場改善に活かしている。職員同士が話しやすい雰囲気があり、日々の申し送りに加え、各種会議など月2～3回話し合いを重ねることで利用者の想いを実現している。レクリエーションなど充実を図り、利用者の笑顔溢れるホームづくりを目指している。

自己評価	外部評価	項 目（ フルーツハウス 1F ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	各階に理念、事業計画を常に目に入る位置に掲示している。会議等の前に参加職員で唱和し、理念の共有、事業計画の理解を図っている。	事業所内に掲示し、常に職員が意識できるようにしている。事業計画、事業報告をする中で、毎年、職員間でアンケートを実施し、年度目標を掲げ取り組んでいる。フロアー会議、ケア会議などを月2～3回行い、会議前には必ず理念を唱和して法人理念の共有や支援の振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の自治会と連携し、避難訓練、祭り等の地域行事に参加している。今年度は、地域の盆踊りに踊り子として、職員2名の参加があり来年度もお願いしている。また地域の友人、知人等の面会も度々ある。近隣の保育園、小学校の行事へ参加し地域との交流を積極的に図っている。	地元行事が盛んな地域で、季節毎の行事があれば準備段階から参加し、近隣住民との関わりを重ね、顔なじみの関係ができています。自治会とんど祭り、小学校運動会の観覧席での応援、秋祭りにホーム目の前に神輿が訪れている。今年度より、地元行事の準備、お手伝いを始めた経緯がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	不定期ではあるが、サロンでの認知症講座への職員派遣や、地域での認知症サポーター養成講座に手伝いとして参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	推進会議では、利用者様の動向等を地域代表や行政へ報告し、サービス状況等を掌握して頂いている。また、そこで地域連携ができそうな行事や催し物等の情報を互いに収集しあい連携を図っている。前年度から年1回ではあるが、地域代表の方に講師としてレクリエーション（制作物）を実施してもらっている。	会議では、広報誌を活用し、事業所の取り組み状況を報告され、情報交換の場として意見交換をしている。参加者から外出先の提案があり、紅葉狩りで緑化センターへ行っただけがある。地域代表者が講師となり、制作物を作成されている。次回は押し花を使って団扇づくりを作る予定である。	家族参加が代表者（1～2人）のみであり、意見が運営に一定反映されている場とは言い難い。現在は、議事録が公表されておらず、家族への運営に関する情報が共有できていない状況がある。今後は議事録を送付する案など、会議録公表に取り組み、一人でも多くの家族に参加することを期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	推進会議の開催通知を、広島市社会局介護保険課事業者指導係宛てに郵送し、議事録を安佐北区役所介護保険係宛てにFAX送信している。その他には、安佐北区役所生活課の担当者と、生活保護を受給されている入居者の状態や様子等を連絡し、情報共有に努めている。	介護保険の申請、生活保護担当者との連携を図っている。運営推進会議録を報告し、実情や日頃の取り組みについて、情報を共有し円滑な連携が維持出来るよう尽力されている。地域包括支援センターから認知症講座など依頼を受けることもあり、事業所として積極的に協力している。	

自己評価	外部評価	項 目(フルーツハウス 1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する委員会の設置と、研修委員によるOJTにて研修を行い、職員に周知理解を図っている。	法人本部（特別養護老人ホーム）で毎月委員会を開催し、他の事業所の事例などを把握する機会にもなっている。2年程前は、法人が主にOJTを行っていたが、各事業所の研修委員会を中心に、OJTを受けられる体制づくりが出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止に関する研修を、研修委員によるOJTにて行い、職員に周知理解を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内において、現任研修という形で全職員を対象に成年後見制度等について、研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に重要事項を説明し、契約後の疑問や、質問に細かく答えている。また、面会時や電話での対応も行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	介護サービス計画書の承諾をいただく時に要望、意見を伺っている。また、サービス担当者会議に欠席された家族様にも要望や意見を伺える様に書類を送付している。意見や要望書は、フェイリングする事で、いつでも見れる状態にし、周知徹底を図っている。	家族から、歩行訓練をして欲しい、毎日の日記を継続して欲しい要望から、実現した経緯がある。次年度は、家族などからより多くの意見を反映させるためにアンケートの実施や、面会が少ない家族に普段の様子が伝わるようにホームでの近況報告、個人写真などを活用した手紙送付を検討している。	

自己評価	外部評価	項 目(フルーツハウス 1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	2カ月に1回の法人運営推進会議にて、フロア会議や普段の業務内で出た職員からの提案や意見を、会議内で伝え反映出来る様に取り組んでいる。	定期的実施される各種会議や職員個別面談など意見や提案を聴きやすい機会を設けている。例えば、24時間シート書式を改定や、勤務時間の調整、他のフロアー職員からの意見を反映する気づきシートの作成をし、職員が積極的に取り組める体制作りがされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の人事考課制度や、グループホーム内で管理者とは別に、フロア担当という役割を設け、日頃からの悩みや要望等を話やすい職場環境になる様に、普段から調整している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修委員会から0JTでの研修資料が配布されている為、毎月項目に応じた研修を行っている。また随時、職員のレベルや悩みに応じてケア会議にて、話し合い統一したケア方法となる様に情報共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の各事業所とは、委員会や行事等を通じて、ネットワーク作りを行っているが、法人が0JTでの研修体制となり、内部研修を実施していない為、管理者やリーダー以外の交流は、以前より少なくなっている。法人外とのネットワークはつくられていない。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	特に入居時には既入居者との関係構築のため、席の配置、共同での作業、一人の時間の配慮をし、職員が間に入りスムーズに馴染んでいただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(フルーツハウス 1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時に家族の思い、要望、不安を伺い少しでも疑問に思ったことは、いつでも聞いていただけるよう面会時や電話での個別対応も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時に家族、本人からの要望やフェイスシートに記載されている内容や、相談員、ナース等の多職種からも話を聞き、サービス計画に反映させ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者にとって家族のように何でも言える関係を築けるように、常に情報収集と情報共有に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と連携し、家族と共に本人を支えていくよう努めている。今年度は、家族を講師として招き年賀ハガキの作成をレクとして実施している。また、次年度からは面会が少ない家族にも普段の様子が伝わる様に、写真等を活用した短文での手紙も検討している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いつでも気軽に面会できる体制を整え、近所への散歩、地域行事への参加等、外出の機会を設け、外部との接触を積極的に行っている。また、家族との外出や外泊も支援している。	地元利用者が多く住み慣れた風景の中で暮らしが続いている。生活歴の把握、日々の関りから利用者の思いでの場所を大切に考え、知人・友人との交流、馴染みの美容院など行かれている。以前の場所、今の場所で馴染みの場所となるように支援されている。	

自己 評価	外部 評価	項 目(フルーツハウス 1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者一人ひとりの個性に合わせて支援すると共に、可能な限り一緒に出来ることはしていただき、状態に応じて作業スペースや内容を分ける事も行っている。普段の生活やレクで関わりが円滑にすすむように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了だとしても、その後の様子を確認したり、時には施設や病院に訪問したりと継続した関係性を保つよう支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの意向、希望を介護サービス計画に反映し、均一的な介護サービス計画にならない様に努め、日々のケアにも取り入れている。	居室担当者を中心に、利用者と日々関わる中で、覚え書きシートに記録を残している。意向や要望を汲み取り、職員間で情報共有し、時間経過と共に新たな情報や想いを掘り起こし、本人主体の介護計画に活かしている。個人の想いを大事にした取り組みが観察された。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や趣味を家族、本人から聞き取り、その人らしい生活が送れるよう支援に努めている。また生活歴等にとらわれ過ぎない様に注意し、新しい事にも挑戦できるよう促している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の生活リズムを把握する事からスタートし、24Hシートに個々の生活リズムを記載する事で一人ひとりに合った、1日の過ごし方が出来るよう本人の思いを、汲み取り支援している。		

自己 評価	外部 評価	項 目(フルーツハウス 1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の意向、要望を聞き取り、また担当職員、必要に応じて医療機関、専門職の意見も取り入れ、モニタリングし均一ではなく、その人らしい介護サービス計画になる様、反映させている。	24時間シートの記録を用いて、生活習慣を把握している。本人の役割づくりが大事だと考え、本人・家族の意向や要望を把握し、多様な視点から介護計画書を作成している。座位保持や、歩行などのニーズによっては、法人本部の作業療法士、看護師のアドバイスを受ける体制が出来ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々に24Hシートに記録し、日々の変化、気づきを職員間で共有する事で、より良い介護ができるよう努めている。また、毎月居室担当によるモニタリングにて、介護計画の評価も行い、半年で介護計画の見直しを管理者、介護支援専門員、居室担当で話し合い実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人ひとりの要望を日々のレクや外出、行事、入浴等に取り入れ、定型的な業務にならないよう実践に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の保育園、小学校、地域の行事参加、地域の子ども会との交流、スーパーへの買い物等、地域資源を活用している。また、「たけのこ会」という名称で、小学校の児童クラブ等に入れない子を対象にした預かり支援も行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医との連携を図り、健康管理している。また必要、要望があれば内科以外の受診も随時、看護職員や介護職員にて対応している。	月2回の往診体制や緊急時の対応を踏まえ、ホームの主治医をお願いしている。他科（皮膚科、眼科など）の受診も職員が対応している。法人内他事業所の看護職員との連携が図られ、後方からの支援が整っている。有事の時は、主治医と共にオンコール体制で対応している。	

自己評価	外部評価	項 目(フルーツハウス 1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員と介護職員間の連携、法人内他事業所看護職員、医療機関との連携を図り入居者の状態に応じて迅速、適切に受診、看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、定期的に様子を伺いに医療機関に訪問し情報収集している。また早期に退院できるよう病院関係者と管理者間で情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、速やかに家族、医療機関と連携し、今後の方針について話し合いをもつようにしている。法人本部と常に情報を共有し、状態に合わせて特養入所なども行っている。	常に医療従事者がいるわけでないため、終末期の対応はお断りをしている。終末期の時期は、主治医と法人本部と相談し、併設の特別養護老人ホームなどへ転所する場合がある。カンファレンスを重ね、本人の症状と家族の意向を踏まえての対応方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時の対応については、全職員OJT研修を受け、統一した対応ができるよう備えている。事故を未然に防ぐ為に、覚え書きや気づき報告書の活用や、ケア会議で情報共有に努めている。また、管理者が24Hオンコール体制を取り職員の不安軽減に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	施設内での火災避難訓練を定期的実施している。また、消防署主催の防災研修に職員数名が参加している。地域の防災訓練にも職員が参加して、地域の協力体制を築いている。現在、地域協定の話も少しずつ出てきている。	火災避難訓練（1回は夜間想定）を実施している。年1回の消防署主催の防災研修に職員が数名参加している。2日分の食糧などの備蓄を準備している。一昨年の災害には、ホーム浴室を地域に開放した経緯があり、運営推進会議などで話し合いを行う中で、地域協定の話も少しずつ出てきている。	

自己評価	外部評価	項 目（ フルーツハウス 1F ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接し方、声のかけ方について意識し、日々の業務の中で職員同士で注意しあい、接遇技術の向上に努めている。	初任者研修、OJT、現任研修と充実した研修体制が確立され、接遇技術の向上に努めている。「～さん」づけを基本とし、日頃からの言葉かけ、ケアについて丁寧に対応するようにしている。職員同士が話しやすい雰囲気であり、気づいた点があれば職員同士で声をかけあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思いや、希望を表現できるよう、入居者一人ひとりに合わせた声掛けを行い、職員の都合等で判断せず、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせたケアを実践し、本人の意向、希望を優先したケアになる様にケア会議での話し合いや、普段の業務内において意見交換を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に服の選択をしていただき、選択できない方にも、その方に合った服を選び身だしなみに配慮している。さらに、いつも同じような着回しにならない様に努めている。また、外出支援の際に一緒に買い物に行き、好みの服を選んでいただくなども行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けを工夫したり、体操時や対話の際に、メニューの説明や自席からメニューが見える様にホワイトボードへの記入など、食事が楽しみになる様に努めている。また出来る方には、盛り付けや食器洗い、お盆拭きなど無理のないペースで行っていただいている。	ホーム菜園で取れた野菜（茄子、ピーマン、ゴーヤ、南瓜など）を食事に適宜活かしている。毎月の行事担当者が調理レク（お好み焼きなど）、おやつレク（スイートポテトなど）を取り入れ、本人のリクエストに応えるように努め、食を楽しむ事が出来る支援をされている。	

自己評価	外部評価	項 目(フルーツハウス 1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各入居者に応じた食事形態で提供している。1日の水分摂取量1500ccを目安とし、毎食摂取量を記録して状態把握に努めている。また、毎月初めに、体重測定も行い過度な増減に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後全員口腔ケアを促している。自分で出来る範囲は自分でしていただいている。義歯洗浄剤のみ職員が実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自立の方以外は、一人ひとりの排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行っている。自立の方も、トイレの間隔が空いている際には自尊心に配慮した声掛けで促している。夜間帯は、出来る限りパターンに合わせて誘導しトイレでの排泄を促している。	法人全体として、おむつゼロを目指している。個々の排泄パターンを事前に個別記録で把握し、トイレに座ることを基本に、排泄の自立支援に繋げている。リハビリパンツから布パンツへ移行した例もあり、なるべく紙おむつ削減にも取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	できるだけ下剤に頼らず、起床時の冷水、水分摂取の促し、便秘体操等で腸動を促すことによる排泄に努めている。また、排便困難者を覚え書きに書き出し、情報共有する事で排便確認の徹底や、長めに座って頂き腹部に力を入れてもらえるように声掛けを全職員が行える様にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には週3回の入浴としているが、時間、曜日などはできるだけ希望に沿えるようにしている。また、急遽の入浴希望にも対応出来るように職員間で連携を図っている。入浴を楽しんで頂く為に、季節によって菖蒲湯やゆず湯、入浴剤を使用し入浴して頂いている。	個々の希望に合わせた入浴を行っている。基本は週3回13:30から、心身の状況に合わせて柔軟な対応をしている。又、入浴剤を使用したり、柚子湯、菖蒲湯、足湯など入浴を楽しむ支援もしている。また急遽の入浴希望にも対応できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目(フルーツハウス 1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	一人ひとりの習慣に合わせて就 寝時間、起床時間は自由にして いただいている。夜間は2時間 に1回の巡視を行うが、起こさ ないよう扉の小窓から覗くなど の配慮も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	内科往診にて、主治医から処方 があった段階で、看護職員から 、管理者や介護職員に報告と説 明を行い、情報共有に努めてい る。服薬後の小さな状態変化に ついては、看護師、管理者に報 告し、主治医に連絡する等の対 応を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	一人ひとりの生活歴、好きなこ とに合わせて手芸や園芸、レク 、生活作業等を提供している。 また、その人の気分に合わせ、 レク等も無理強いせず自由参 加としている。さらに、一人に なる時間も大切に、居室で過ご されている際には、おやつ提供 の時間をずらしたりと柔軟に対 応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	日頃から近隣へ、個別や小人数 での散歩を行っている。入居者 からの希望があれば、職員間で 検討したのち日程調整を行い、 個別対応や外出レクとして希望 が反映出来る様に努めている。 金銭が発生する場合は、管理人 者から家族確認も行い家族了解 のもと実施している。	行事担当で、毎月行事予定に基 づいて、季節ごとの外出支援を している。気候が良ければお決 まりの散歩コース（約20分）を している。地元行事への参加、 家族の協力で外出、外泊される 方もいる。毎年1回は、食事を 兼ねた日帰り旅行に出掛け、喜 びの一つになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援し ている。	入居者が金銭管理は、行ってい ない。ただし、要望に応じて家 族様に確認を行い、法人本部の 金庫から出金し、一緒に買い物 に行く等している。		

自己 評価	外部 評価	項 目(フルーツハウス 1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて電話、手紙等の連絡を支援している。その際には、管理者から家族様に確認を行い間違いの無い様に努めている。また、数人ではあるが家族様の了承、本人管理のもと携帯電話を持っている入居者もいる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有フロアは常に清潔に保ち、落ち着いた雰囲気になるよう努めている。また季節の飾りや、製作物を飾り、季節感や生活感が感じられる様にしている。	日当たりが良く四季の花が生けられ、窓越しに季節を感じる空間である。テーブル、ソファなどの角度の配置に工夫がされている。レクリエーション（手芸クラブ、陶芸クラブ、絵手紙作りなど）の充実にも力を入れている。利用者も来訪者も心地よく過ごせる工夫が随所にみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりの性格、関係性に合わせて、席の配置を工夫し、その時の気分にも合わせ、ソファに座る等、居心地が良くなるよう工夫している。また、雑誌や歌本、写真アルバムなど自由に閲覧出来るように配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、家族様に自宅等で実際に使用していた家財の持参を、可能な限りで、お願いしている。配置は、導線を確保し入居者様、家族様と一緒に使いやすい様に配置している。また、状態に合わせて配置等の検討も随時行っている。	自宅の生活が場所は違っても、同じ生活が出来るよう、使い慣れた家具など持ち込みは自由である。居室には、ベッド、エアコン、カーテンが準備されている。居室の設営は利用者の状態に合わせて配置など検討している。馴染みの家具や、思い出の写真を飾って、居心地よく過ごせる工夫をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	屋内はバリアフリーにし、手すりを設置する等、移動は安全に自由に行っている。また自立を促すため、車椅子の方にもその人に合った自操を促している。また、フロア内にはハンガーや洗濯ばさみなどの生活用品も設置し、いつでも生活作業が行える様にしている。		

V アウトカム項目(フルーツハウス 1F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項 目（ フルーツハウス 2F ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	各階に理念、事業計画を常に目に入る位置に掲示している。会議等の前に参加職員で唱和し、理念の共有、事業計画の理解を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の自治会と連携し、避難訓練、祭り等の地域行事に参加している。今年度は、地域の盆踊りに踊り子として、職員2名の参加があり来年度もお願いしている。また地域の友人、知人等の面会も度々ある。近隣の保育園、小学校の行事へ参加し地域との交流を積極的に図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	不定期ではあるが、サロンでの認知症講座への職員派遣や、地域での認知症サポーター養成講座に手伝いとして参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	推進会議では、利用者様の動向等を地域代表や行政へ報告し、サービス状況等を掌握して頂いている。また、そこで地域連携ができそうな行事や催し物等の情報を互いに収集しあい連携を図っている。前年度から年1回ではあるが、地域代表の方に講師としてレクリエーション（制作物）を実施してもらっている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	推進会議の開催通知を、広島市社会局介護保険課事業者指導係宛てに郵送し、議事録を安佐北区役所介護保険係宛てにFAX送信している。その他には、安佐北区役所生活課の担当者と、生活保護を受給されている入居者の状態や様子等を連絡し、情報共有に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(フルーツハウス 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する委員会の設置と、研修委員によるOJTにて研修を行い、職員に周知理解を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止に関する研修を、研修委員によるOJTにて行い、職員に周知理解を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内において、現任研修という形で全職員を対象に成年後見制度等について、研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に重要事項を説明し、契約後の疑問や、質問に細かく答えている。また、面会時や電話での対応も行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	介護サービス計画書の承諾をいただく時に要望、意見を伺っている。また、サービス担当者会議に欠席された家族様にも要望や意見を伺える様に書類を送付している。意見や要望書は、ファイリングする事で、いつでも見れる状態にし、周知徹底を図っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(フルーツハウス 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	2カ月に1回の法人運営推進会議にて、フロア会議や普段の業務内で出た職員からの提案や意見を、会議内で伝え反映出来る様に取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の人事考課制度や、グループホーム内で管理者とは別に、フロア担当という役割を設け、日頃からの悩みや要望等を話やすい職場環境になる様に、普段から調整している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修委員会から0JTでの研修資料が配布されている為、毎月項目に応じた研修を行っている。また随時、職員のレベルや悩みに応じてケア会議にて、話し合い統一したケア方法となる様に情報共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の各事業所とは、委員会や行事等を通じて、ネットワーク作りを行っているが、法人が0JTでの研修体制となり、内部研修を実施していない為、管理者やリーダー以外の交流は、以前より少なくなっている。法人外とのネットワークはつくられていない。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	特に入居時には既入居者との関係構築のため、席の配置、共同での作業、一人の時間の配慮をし、職員が間に入りスムーズに馴染んでいただけるよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(フルーツハウス 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時に家族の思い、要望、不安を伺い少しでも疑問に思ったことは、いつでも聞いていただけるよう面会時や電話での個別対応も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時に家族、本人からの要望やフェイスシートに記載されている内容や、相談員、ナース等の多職種からも話を聞き、サービス計画に反映させ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者にとって家族のように何でも言える関係を築けるように、常に情報収集と情報共有に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と連携し、家族と共に本人を支えていくよう努めている。今年度は、家族を講師として招き年賀ハガキの作成をレクとして実施している。また、次年度からは面会が少ない家族にも普段の様子が伝わる様に、写真等を活用した短文での手紙も検討している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いつでも気軽に面会できる体制を整え、近所への散歩、地域行事への参加等、外出の機会を設け、外部との接触を積極的に行っている。また、家族との外出や外泊も支援している。		

自己 評価	外部 評価	項 目(フルーツハウス 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者一人ひとりの個性に合わせて支援すると共に、可能な限り一緒に出来ることはしていただき、状態に応じて作業スペースや内容を分ける事も行っている。普段の生活やレクで関わりが円滑にすすむように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了だとしても、その後の様子を確認したり、時には施設や病院に訪問したりと継続した関係性を保つよう支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの意向、希望を介護サービス計画に反映し、均一的な介護サービス計画にならない様に努め、日々のケアにも取り入れている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や趣味を家族、本人から聞き取り、その人らしい生活が送れるよう支援に努めている。また生活歴等にとらわれ過ぎない様に注意し、新しい事にも挑戦できるよう促している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の生活リズムを把握する事からスタートし、24Hシートに個々の生活リズムを記載する事で一人ひとりに合った、1日の過ごし方が出来るよう本人の思いを、汲み取り支援している。		

自己 評価	外部 評価	項 目(フルーツハウス 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の意向、要望を聞き取り、また担当職員、必要に応じて医療機関、専門職の意見も取り入れ、モニタリングし均一ではなく、その人らしい介護サービス計画になる様、反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々に24Hシートに記録し、日々の変化、気づきを職員間で共有する事で、より良い介護ができるよう努めている。また、毎月居室担当によるモニタリングにて、介護計画の評価も行い、半年で介護計画の見直しを管理者、介護支援専門員、居室担当で話し合い実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人ひとりの要望を日々のレクや外出、行事、入浴等に取り入れ、定型的な業務にならないよう実践に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の保育園、小学校、地域の行事参加、地域の子ども会との交流、スーパーへの買い物等、地域資源を活用している。また、「たけのこ会」という名称で、小学校の児童クラブ等に入れない子を対象にした預かり支援も行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医との連携を図り、健康管理している。また必要、要望があれば内科以外の受診も随時、看護職員や介護職員にて対応している。		

自己 評価	外部 評価	項 目(フルーツハウス 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員と介護職員間の連携、法人内他事業所看護職員、医療機関との連携を図り入居者の状態に応じて迅速、適切に受診、看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、定期的に様子を伺いに医療機関に訪問し情報収集している。また早期に退院できるよう病院関係者と管理者間で情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、速やかに家族、医療機関と連携し、今後の方針について話し合いをもつようにしている。法人本部と常に情報を共有し、状態に合わせて特養入所なども行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時の対応については、全職員OJT研修を受け、統一した対応ができるよう備えている。事故を未然に防ぐ為に、覚え書きや気付き報告書の活用や、ケア会議で情報共有に努めている。また、管理者が24Hオンコール体制を取り職員の不安軽減に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	施設内での火災避難訓練を定期的に実施している。また、消防署主催の防災研修に職員数名が参加している。地域の防災訓練にも職員が参加して、地域の協力体制を築いている。現在、地域協定の話も少しずつ出てきている。		

自己評価	外部評価	項 目（ フルーツハウス 2F ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接し方、声のかけ方について意識し、日々の業務の中で職員同士で注意しあい、接遇技術の向上に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思いや、希望を表現できるよう、入居者一人ひとりに合わせた声掛けを行い、職員の都合等で判断せず、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせたケアを実践し、本人の意向、希望を優先したケアになる様にケア会議での話し合いや、普段の業務内において意見交換を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に服の選択をしていただき、選択できない方にも、その方に合った服を選び身だしなみに配慮している。さらに、いつも同じような着回しにならない様に努めている。また、外出支援の際に一緒に買い物に行き、好みの服を選んでいただくなども行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けを工夫したり、体操時や対話の際に、メニューの説明や自席からメニューが見える様にホワイトボードへの記入など、食事が楽しみになる様に努めている。また出来る方には、盛り付けや食器洗い、お盆拭きなど無理のないペースで行っていただいている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(フルーツハウス 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各入居者に応じた食事形態で提供している。1日の水分摂取量1500ccを目安とし、毎食摂取量を記録して状態把握に努めている。また、毎月初めに、体重測定も行い過度な増減に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後全員口腔ケアを促している。自分で出来る範囲は自分でしていただいている。義歯洗浄剤のみ職員が実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自立の方以外は、一人ひとりの排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行っている。自立の方も、トイレの間隔が空いている際には自尊心に配慮した声掛けで促している。夜間帯は、出来る限りパターンに合わせて誘導しトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	できるだけ下剤に頼らず、起床時の冷水、水分摂取の促し、便秘体操等で腸動を促すことによる排泄に努めている。また、排便困難者を覚え書きに書き出し、情報共有する事で排便確認の徹底や、長めに座って頂き腹部に力を入れてもらえるように声掛けを全職員が行える様にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には週3回の入浴としているが、時間、曜日などはできるだけ希望に沿えるようにしている。また、急遽の入浴希望にも対応出来るように職員間で連携を図っている。入浴を楽しんで頂く為に、季節によって菖蒲湯やゆず湯、入浴剤を使用し入浴して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目(フルーツハウス 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	一人ひとりの習慣に合わせて就 寝時間、起床時間は自由にして いただいている。夜間は2時間 に1回の巡視を行うが、起こさ ないよう扉の小窓から覗くなど の配慮も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	内科往診にて、主治医から処方 があった段階で、看護職員から 、管理者や介護職員に報告と説 明を行い、情報共有に努めてい る。服薬後の小さな状態変化に ついては、看護師、管理者に報 告し、主治医に連絡する等の対 応を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	一人ひとりの生活歴、好きなこ とに合わせて手芸や園芸、レク 、生活作業等を提供している。 また、その人の気分に合わせ、 レク等も無理強いはせず自由 参加としている。さらに、一人 になる時間も大切に、居室で過 ごされている際には、おやつ提 供の時間をずらしたりと柔軟に 対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	日頃から近隣へ、個別や小人数 での散歩を行っている。入居者 からの希望があれば、職員間で 検討したのち日程調整を行い、 個別対応や外出レクとして希望 が反映出来る様に努めている。 金銭が発生する場合は、管理者 から家族確認も行い家族了解の もと実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援し ている。	入居者が金銭管理は、行ってい ない。ただし、要望に応じて家 族様に確認を行い、法人本部の 金庫から出金し、一緒に買い物 に行く等している。		

自己評価	外部評価	項 目(フルーツハウス 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて電話、手紙等の連絡を支援している。その際には、管理者から家族様に確認を行い間違いの無い様に努めている。また、数人ではあるが家族様の了承、本人管理のもと携帯電話を持っている入居者もいる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有フロアは常に清潔に保ち、落ち着いた雰囲気になるよう努めている。また季節の飾りや、製作物を飾り、季節感や生活感が感じられる様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりの性格、関係性に合わせて、席の配置を工夫し、その時の気分にも合わせ、ソファに座る等、居心地が良くなるよう工夫している。また、雑誌や歌本、写真アルバムなど自由に閲覧出来るように配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、家族様に自宅等で実際に使用していた家財の持参を、可能な限りで、お願いしている。配置は、動線を確保し入居者様、家族様と一緒に使いやすい様に設置している。また、状態に合わせて配置等の検討も随時行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	屋内はバリアフリーにし、手すりを設置する等、移動は安全に自由に行っている。また自立を促すため、車椅子の方にもその人に合った自操を促している。また、フロア内にはハンガーや洗濯ばさみなどの生活用品も設置し、いつでも生活作業が行える様にしている。		

V アウトカム項目(フルーツハウス 2F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム（山まゆ）フルーツハウス

作成日 令和2年4月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	家族参加が代表者のみであり、意見が運営に反映されにくい。また、逆に運営の意見等も伝わり辛い。	家族と運営(施設間)での情報共有を図る。	まずは、会議議事録を家族送付する。	2～3カ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。